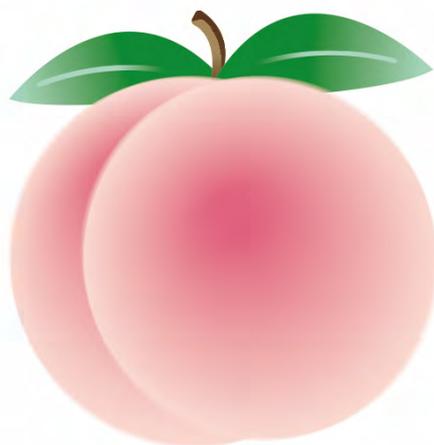


綱島西地区 地域緑化計画書

計画名：花と緑で人をつなぐ「つなしま」

－ つなつなプロジェクト －

推進団体名：フローラルつなしま



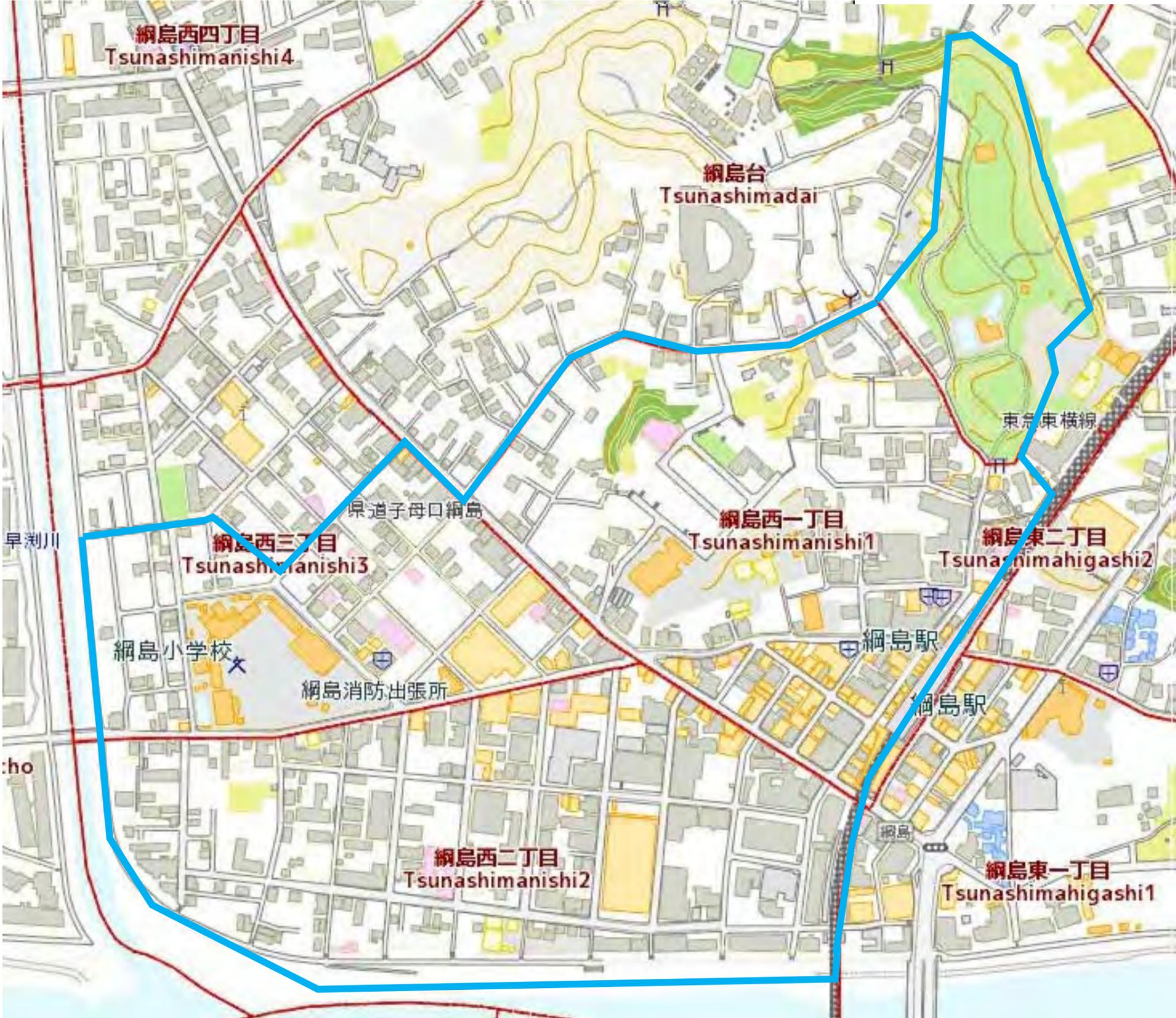
花と緑で人をつなぐ「つなしま」

つなつなプロジェクト

フローラルつなしま運営委員会

<https://tsunashima.com/2020/02/9451/>

地区の範囲

<p>対象範囲</p>	
<p>・港北区綱島西1～3丁目、綱島台1 (綱島公園)</p>	
<p>対象範囲の概要</p>	
<p>綱島には、綱島公園や鶴見川等の 岸边といった豊かな自然があり、 人気イベントの港北オープン ガーデンへの参加やボランティア 活動が活発であるなど、緑化意識 の高い住民が多く住んでいる。 古くからの住民が多く、若年世 帯が転出し、高齢化が進んでいる ものの、新駅建設と東地区の再開 発、区民文化センター建設で、今 後は人口の増加が見込まれる。 ターミナルである駅前は、賑わ い・活気があるものの、道幅は狭 く、更なる緑化には工夫が必要で ある。一方で、新駅に向けて、通 行量が増加する三角通りや、川沿 いの住宅街は緑化の余地が大きい エリアである。</p>	

計画期間	令和2年度 ～ 令和4年度
計画の目標	<p>《提案計画の目標》 花と緑でつながり、ほほえみ広がるまちづくり</p> <p>【つながりづくり】A) 人をつなぐ 入れ替わりが激しい都市住民をつなぐ B) 緑の魅力・資源をつなぐ ①丘の緑の拠点：綱島公園 ②まちの緑の拠点：綱島地区センター（以後：地区センター） ③川辺の緑の拠点：河川敷の自然。三つの拠点を緑でつなぐ。 C) 時間をつなぐ かつて桃の生産地であったことなど、緑にまつわるまちのできごとを緑化活動のなかで子どもたちに伝え、地域の歴史をつなぐ。</p> <p>【点から線、線から面へと緑化ゾーンを拡大する】 まちに点在する緑のポイントを線でつなぎ、面となるように花と緑を創出する。まち並みにそぐわないカラーコーンをプランターに変えていく等、地域の課題を解決しながら緑化を進める。</p> <p>【新しい活動の担い手の発掘と仕組みづくり】 花と緑の推進リーダー（以後：緑のリーダー）や港北オープンガーデンの担い手（以後：KOGリーダー）を核に各種の講座やイベントの開催で、事業の啓発と活動の担い手やリーダーを発掘・育成し、これらの活動が継続できる仕組みをつくる。</p>
課題及び背景	<p>【人々が集う緑の拠点が抱える課題】 ①丘の緑の拠点 綱島公園は花が咲かなくなった桜が増え、新規植樹も成功していない。②まちの緑の拠点 地区センターは未活用の花壇があり、商店街のフラワーポットは老朽化している。③川辺の緑の拠点 鶴見川河川敷の菜の花ビオトープが有効に活用されていない。</p> <p>【担い手の不足】 緑のリーダーや KOG リーダーがまちの緑化や花壇の世話を実践してきたが、高齢化やボランティアの減少により、担い手を増やしていく必要がある。</p> <p>【地域が持つ課題】 駐輪場の不足や安全への配慮から、カラーコーンの林立となり雑然とした景観に地域の人が慣れてしまっている。</p>
課題解決及び効果	<p>【点在していた緑の拠点を新たな緑でつなぐ】 新規のプランターと手入れをしてきた既存プランターを配置することで緑をつなぎ、放置自転車や違法駐車解消にも有効に生かす。雑草に覆われた街路樹の足元に新たな植栽を施し、まち中の緑の拠点をつなぐことで、緑化ゾーンが拡大する。生きものの賑わい（生物多様性）にも貢献できる緑の景観がまちから川へと連続してつながる。</p> <p>【シンボルツリー 桃と野草が緑と人をつなぐ】 活動のシンボルに桃や在来種の野草（ハマカンゾウ等）を活用することで、まちの緑の連続性と一体感、歴史性が表現される。緑も人のつながりも共に面的に発展拡大する。</p> <p>【復活した緑と創出された緑が人のつながりを拡大充実させる】 綱島公園の桜の根本を植栽で保護し、みんなでお世話することで、桜が再生され、華やかな桜まつりが開催される。新たな地域活動の担い手が、地区センターで行われる講習会で養成され、リーダーやボランティアが育成される。港北オープンガーデンや、日ごろの緑化活動で培った地域のつながりが、創出された緑の継続と広がりを後押しする。</p>

<p>組織づくり</p>	<p>【地域活動のリーダーによる実行委員会形式で構成する】よこはま緑の推進団体、町内会や商店会、地区センター、川辺の活動をする市民団体が構成員となることで、新たな地域のつながりが生まれ、チャレンジをしていく原動力となる。</p> <p>【効率のよい運営】事務局は全体を統括し、事業構成員が定例の情報交換の場を設け、進捗状況や課題の管理、調達や情報発信活動等を行う。地区センターは本事業全体の活動事務局の拠点として、運営をサポートしていく。</p> <p>【外部団体のサポート】港北区地域振興課と協力関係諸団体や地元ガールスカウト等経験の豊富な団体からのサポート体制をつくる。</p>
<p>計画期間中の緑化整備及び活動の概要について</p>	<p><民有地緑化></p> <p>【緑化拡張エリア】パデュ通り、綱島公園への通り、ピーチ花壇を経て地区センターに続く通り沿いにある民有地に働きかけプランターやハンギングバスケット等を設置、景観を阻害するカラーコーンを緑に置き換えていく。イトーヨーカ堂横の植栽地にシンボルツリーの桃を植樹。港北オープンガーデン参加者会場の拡大。鶴見川河川敷（ビオトープ）の整備。拠点となる地区センター他の緑化整備、樹木保護。</p> <p>【在来種を中心にした植栽】ハマカンゾウ。</p> <p><地域緑化活動></p> <p>【サポーターの育成】緑のリーダーが中心となり、地区センターと連携した講習会等から新たな緑育成のリーダーやボランティアを育て、地域緑化作業を推進する。</p> <p>【育苗活動】拠点となる、地区センターでの育苗活動。</p> <p>【地域情報誌の発行】植栽の近くの商店街や住民の協力を得ると同時に、地域全体に活動の理解を得る目的の情報誌「つながり通信（仮称）」の発行をする。</p>
<p>計画期間終了後の活動について</p>	<p>【担い手】これまでも実践してきた園芸講座、桃や水害の歴史や防災学習、川辺での自然観察会等をさらに充実させ、地域全体の取り組みとして、域外からの参加や見学も受け入れることで、周辺地域との人的な交流や担い手の発掘につなぐ。</p> <p>【資金】期間内に募集予定の寄付スポンサーとの協力関係を維持発展させていく。</p> <p>【仕組み】横浜市緑の協会の推進団体支援の仕組み（花苗の助成等、緑の推進団体の緑化リーダー育成システム）を利用し、持続性のある活動を推進する。活動の支援等、地域緑のまちづくり活動の周辺地域への波及を後押しする（再開発中の駅東側地区や隣接地域のコミュニティガーデン等）。</p> <p>【情報発信】町内会や商店会などスポンサーをつのり、地域情報誌やソーシャルメディアを利用した地域全体の情報を発信する媒体の構築を工夫する。</p>
<p>資金計画</p>	<p>【計画期間中】商店会、町内会から自己負担分10%に対する補助を得る。</p> <p>【計画期間終了後】種や花苗の購入は、横浜市緑の協会による緑の推進団体への助成と、地区センターでの育苗や野草の里親制度により調達する。</p> <p>【新たな資金源】活発な情報発信により推進活動自体の広告価値も高め、地元企業等の協賛を得る。広報誌やイベントでの協賛企業の広告を行うほか、新たな観光の育成や将来的にはクラウドファンディング等、幅広く資金調達をする方法を模索する。</p>

計画年次	計 画 内 容
1年度目 (令和2年 度)	<p>○民有地緑化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・綱島公園や地区センターへの舗道、商店街の緑化（寺社や幼稚園、店舗にプランター等を設置、植栽スペースへの地植え）。綱島公園こどもログハウスの緑のカーテン育成。地区センターの正面シェードガーデンの整備。港北区地域振興課、協力関係諸団体と協力した河川敷のビオトープ整備（野草の移植）、綱島公園の木々の根本への植栽による保護サークル設置。 <p>○地域緑化活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地区センターで育苗ナーセリーの設置、園芸講座や緑化育成講座開催。 ・野草の里親制度といった子どもの花育も含めた講座開催。 ・桃をイメージしたロゴマークの策定、HP や SNS の運営、フライヤーや広報誌の作成、案内サイン制作、ユニフォーム作成。
2年度目 (令和3年 度)	<p>○民有地緑化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ピーチ花壇の壁面緑化と立体緑化。 ・パデュ通り、モール商店街、住宅街等へプランター、ハンギングバスケット設置、植栽スペースへの地植え・トヨーカ堂、メガロス等の植栽スペースへ桃の植栽。 <p>○地域緑化活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地区センターでの園芸講座や緑化育成講座開催、花と緑の推進リーダー養成とボランティアの輩出。育苗ナーセリーでの苗づくり。 ・公園内樹木保護サークルの緑化維持。綱島公園こどもログハウスの緑のカーテン維持管理。 ・河川敷のビオトープ維持や生物多様性保全、野草の里親制度等の花育、講座開催。 ・HP や SNS の運営、フライヤーや広報誌の作成。
3年度目 (令和4年 度)	<p>○民有地緑化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住宅地の緑化（個人宅等へプランターやハンギングバスケット設置、植栽スペースへの地植え）。 <p>○地域緑化活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地区センターでの園芸講座や緑化育成講座開催、緑のリーダー養成とボランティアの輩出。育苗ナーセリーでの苗づくり。 ・公園内樹木保護サークルの緑化維持、綱島公園こどもログハウスの緑のカーテン維持管理。 ・鶴見川河川敷のビオトープ維持や生物多様性の保全活動、野草の里親制度といった子どもの花育も含めた講座開催。 ・HP や SNS の運営、フライヤーや広報誌の作成
創意工夫	<p>【地域密着】①地元の商店会、町内会、緑化ボランティア団体等がプロジェクト推進メンバーとなり、まちの緑化に豊富な経験のある KOG リーダーが事務局を務める。②地域拠点の地区センターでは、事務局サポートと教育講座の開催、遊休スペースでの花苗の生産を行う。③地元の緑化ボランティア団体やガールスカウト、教育機関と共同で活動を広める。【実績ある関係諸団体との協働】蝶の食草となる植物と桃、野草をテーマに選定することで、川辺の生物多様性保全活動とまち中の緑化が蝶の道で繋がりを、厚みのあるコミュニティ形成を推進するためのカルキュラムを推進できる。</p> <p>【地域の特産品のレシピ開発】野草を用いたレシピを開発し地域おこしに役立てる。</p>

『花と緑でつなぐ「つなしま」—つなつなプロジェクト』

【花と緑でつながり、ほほえみ広がるまちづくり】

つながりづくり
 A)人をつなぐ
 B)緑の魅力・資源をつなぐ
 C)時間をつなぐ

三つの目標

点から線、線から面へと緑化ゾーンを拡大する

新しい活動の担い手の発掘と仕組みづくり



A★ 網島地区センター：活動拠点

園芸講座等でリーダーやボランティアを育成

歴史等を学ぶ学習を開催

まちの緑拡大

B★ ピーチ花壇交差点 壁面緑化と立体緑化する

遊休スペースで育苗し、緑化拡大ゾーンへ

C 網島公園：桜のツリーサークル

踏まれて花付きが悪くなっている桜の根本に植栽をして保護、再生させる

B 網島公園や網島地区センターに続く歩道の緑化

その他緑化ポイントも同様

石垣や壁面にハンギングプランターBOX設置

歩道に面した花壇への花苗提供

● 港北オープンガーデンの参加者数を増やす

F イトーヨーカ堂側面の桃のシンボルツリーを植樹する

E パデュ通りのプランターを移動し新規、大型にする

E 鶴見川につながる道の緑化で、カラーコーンの林立や駐輪駐車車の解消にもつながる
パデュ通りにあったプランターを修理して移動する

G 鶴見川河川敷のビオトープを充実

港北区が国交省から占用し、町内会等が管理している河川敷の植生を野草（ハマカンゾウ等）で植栽し、ビオトープ化を促進させる

概算事業費（単位：千円）（注1,5）

助成項目	細目	1年度目（令和2年度）	2年度目（令和3年度）	3年度目（令和4年度）	項目ごとの合計	※【参考】 助成率・助成金額の上限	
1 民有地緑化	①設計等経費	700	980	500	2,180	100%以内	
	(主な内容) ①各エリアの個別設計 ②施工監理		(主な内容) ①各エリアの個別設計 ②施工監理	(主な内容) ①未整備箇所の設計 ②施工監理			
	②緑化整備等経費 (注2)	3,500	4,900	2,510	10,910	90%以内	
	(主な内容) ①網島公園と網島地区センターに続く舗道、商店街の緑化（コンテナ、ハンギング設置、植栽スペースへの地植え等）、②公園内の木の保護サークル設置、網島公園こどもログハウスの緑のカーテン育成、③地区センター花壇整備、④河川敷のピオトープ整備		(主な内容) ①ピーチ花壇の壁面緑化と立体緑化 ②パデュ通り、モール商店街、住宅街等へのコンテナ、ハンギングバスケット設置、植栽スペースへの地植え、②イトーヨーカ堂、メガロス等の桃や植栽	(主な内容) ①住宅街の緑化（個人宅等へコンテナ、ハンギングバスケット設置、植栽スペースへの地植え）、			
	合計額 (注9)	概算事業費 4,200 (助成見込額) (3850)	概算事業費 5880 (助成見込額) (5390)	概算事業費 3010 (助成見込額) (2759)	13,090 11,999		
2 景観木保全	①調査費	0	0	0	0	100%以内	
	②診断書作成費	0	0	0	0	100%以内 (上限20千円/本)	
	③治療費	0	0	0	0	③と④は各景観木1本につき、合計50千円以内	100%以内 (上限50千円/本)
	④環境整備費	0	0	0	0		100%以内 (上限50千円/本)
	合計額 (注9)	概算事業費 0 (助成見込額) (0)	概算事業費 0 (助成見込額) (0)	概算事業費 0 (助成見込額) (0)	0 0		
3 地域緑化活動 (注3)	①維持・管理費	700	700	700	2,100	①～④の合計 1,000千円以内 /年度	100%以内
	②広報・研修費	200	200	200	600		100%以内
	③事務費	60	60	60	180		100%以内 (上限100千円/年度)
	④諸雑費	40	40	40	120		100%以内 (上限40千円/年度)
	合計額 (注9)	概算事業費 1,000 (助成見込額) (1000)	概算事業費 1,000 (助成見込額) (1000)	概算事業費 1,000 (助成見込額) (1000)	3,000 3,000		
年度ごとの合計 (注4,6,7,8)	概算事業費 5,200 (助成見込額) 4,850	概算事業費 6,880 (助成見込額) 6,390	概算事業費 4,010 (助成見込額) 3,759	16,090 14,999	総合計	助成見込額の3年度の 総合計が15,000千円以内	

- (記入時の注意事項)
- 注1：各細目には、提案計画の助成金と自己負担金を含めた概算事業費（予定金額）を記入してください。計画がない項目や細目は、0（ゼロ）を記入してください。
 - 注2：民有地緑化の緑化整備等経費には、最低10%の自己負担金が必要となります。（助成金申請時に、自己負担金が用意できることが助成金交付の要件となります。）
 - 注3：地域緑化活動の助成項目では、1年度につき1,000千円が助成金額の上限となります。
 - 注4：民有地緑化、景観木保全、地域緑化活動の助成金の合計は3年度で15,000千円が助成金額の上限となります。
 - 注5：千円単位で記入してください。（なお助成金額は、千円未満切り捨てとなり、端数は自己負担金となります。）
 - 注6：本概算事業費の年度ごとの合計金額を上回る助成金の申請はできません。
 - 注7：年度ごとの概算事業費を作成することとし、年度間での助成金のやりとりはできません。（年度ごとに助成事業を完了させる必要があります。）
 - 注8：上限内での年度ごとの項目内における、細目間での事業計画の見直しは、可能です。（2年度の地域緑化活動における維持管理費を増やし、その分の広報研修費を減らすなど）
 - 注9：各項目内における細目の合計欄には、概算事業費（予定金額）と、助成見込額の合計を記入してください。なお、助成見込額には、（ ）を付けてください。